

渡嘉敷の聖域

神々の島

地元自治体は、渡嘉敷島と周辺の島々におよそ 100 箇所ある聖域（沖縄の言葉で「拝所」または「御嶽」）を 2018 年から徹底的に調査しました。聖域には様々な形があります。丘の頂上にある聖域では、琉球王国や中国へと向かう船に乗った家族のために、島民が祈りました。古い樹木や巨岩など、特に立派な自然美を備えた場所もあります。1 年のうちの特定の時期に神々が訪れると考えられている場所や、第二次世界大戦終結時の集団自決と関連している墓地もあります。中には日常的な、現実世界の役に立っている場所もあります。例えば、渡嘉敷村の海に面した拝所には学生たちが訪れて成績向上の願掛けをしています。

大変な数が存在するにも関わらず、渡嘉敷の拝所や御嶽は、島民の日常生活の中でかつてのような重要な役割を果たす場面が少なくなってきました。第二次世界大戦と、それに続いて起こった人口移動、ノロ文化の消滅、高齢化による伝承機会の減少などを原因としてあったせいです。島民たちが祈る機会は減少しつつありますが、これらの聖域は未だに人類学と歴史上の重要な場所として保護され、維持されています。島民や観光客に向けて大切な場所があるという周知活動を行うために、渡嘉敷村役場発行の英語ガイドブックには、島内で最も有名な 23 箇所の拝所と御嶽とその他の文化財について情報が掲載されています。